

バンコク日本人学校における日本語補修授業について

平成15年度派遣バンコク日本人学校
岡山市立平島小学校 三 村 忠

1 バンコク日本人学校の児童・生徒の実態

バンコク日本人学校は、世界で一番歴史が古く、また世界1・2を争う大規模校の日本人学校である。在籍している児童・生徒のほとんどが駐在員の子どもである。しかし、近年になり入学条件などの変更に伴い、父親が日本人で母親が他国の人という児童・生徒が増えてきている。中でも母親がタイ人であるケースが多い。つまり二重国籍の児童・生徒が増加している。全校約1割の児童・生徒にあたる。二重国籍の児童・生徒は、学校では日本語、家庭ではタイ語と日本語で過ごすことが多い。そのため、日本語力に不安を抱えている児童・生徒も少なくない。特に低学年においては、日本語力にかなりの差があり、通常の会話では問題ないが、学習になると理解が困難になる場面も多い。そこで、低学年においては、週に1回放課後を活用し、二重国籍の児童を対象に日本語補習を行っている。



2 日本語補習の授業の様子

1・2年生ともに約20人の児童が日本語の補習を受けている。日本語の語学力にも差があるため、2年生では能力別クラスに編成し、授業を行っている。1年生においては、個々の児童の課題に応じて、「話す・聞く」「読む」「書く」のグループに分かれて指導をしている。授業は、年間指導計画を基本とし、各担当の先生が教材を工夫して取り組んでいる。日本語カルタを活用したり、実際の場面を想定して日本語を使う練習をしたりしている。右上の写真は、カルタの絵から言葉を想起し、そのカルタをとるゲームを通して、語彙力を伸ばすことをねらっている活動である。その他にも、絵本をみんなで読み合い、その後あらすじをみんなで話し合う活動なども行っている。参加している児童は、とても意欲的で楽しく授業を受けている。

3 日本語補習授業の課題

児童の多くは、日常会話では問題がない。時に助詞の使い方が違うことがある。ま



た、日本や季節に関する語彙が乏しい。日本の学習指導要領による学習活動の中で、学習に関する語彙が理解できないことが多い。しかし、学習言語とは何か、また、それを身につけさせる有効な手だてとは何かを明らかにできていない。さらに、週に一回（年間約17回程度）の授業で、どれだけ日本語の語学力を高めることができるのか難しいものがある。